

「串本古座高等学校における再編整備」(案)に係る県民意見募集の概要

I 県民意見募集の概要

1 意見の募集期間

平成28年5月24日(火)から平成28年6月14日(火)

2 提出された意見の件数

86通(郵送29、電子メール35、FAX22)

II 提出された意見の概要とこれに対する県教育委員会の考え方

(1) 再編整備(案)全般について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none">串本古座高校の再編を進めることに賛成である。特に地域資源を生かした特色ある教育内容と人材の育成、地域の活性化をめざした取組は素晴らしい発想であり、過疎化に悩む全国の高校のあり方に一石を投ずるものと大きな期待をもっている。今回の取組が成功することを心から期待し、応援する。串本校舎と古座校舎が一つになることは良いことだと思う。生徒の数が減少し、高校でのクラスが少なければ、部活や勉強で切磋琢磨することがない。行政は、時代の流れと変化を汲み取り、10年、100年先を読み、判断しなければならない。今日、2校舎制を廃し、串本古座地域の高校を1校舎とすることは、やむを得ない判断である。大切なことは、将来に向けてどのような展望が持てるかであり、地域の輝かしい将来への展望があれば、地域の人々の理解と共感を得られると考える。串本・古座地域には、クラス数が基準に達していなくても高校が必要。田辺から新	<ul style="list-style-type: none">串本古座高等学校の再編整備は、平成28年4月に策定しました「県立高等学校再編整備基本方針」に基づき、生徒数の減少や社会の変化等に対応し、教育環境の向上を図るために行うものです。 串本古座高等学校は、平成20年に、串本高等学校と古座高等学校が統合し、開校しました。統合の際には、「分校舎が2学級規模を維持できないと判断した場合は募集を停止する」との方針のもと、離れた場所に二つの校舎を有する形で、運営をしてきました。その後、地域の生徒数の減少にともない、平成25年度から古座校舎は1学年1学級となりましたが、募集を停止せず、2校舎での教育環境を維持してまいりました。

宮の間に高校がなくなるのは地域の衰退を招く。そのために施設設備が充実している串本校舎に統合し、魅力的な特色ある学校として頑張ってもらいたい。

- ・ 本来であれば、古座校舎の2クラス維持が困難になった時点で閉校の可能性があったが、県はなんとか今まで存続させてくれた。しかし、少子化が進行し、串本古座高校自体の存続が危ぶまれる中では、串本校舎に募集を集約することに賛成する。
- ・ 日本中が人口減少する中、古座校舎の閉校は、教育の効率化や税金の有効な使い方として仕方がないと思う。このような社会状況の中、全国募集枠のコースを設けるなど、生徒、若者の人口増をめざす取組はたいへんよい。
- ・ 生徒数の減少を考えると、再編整備はやむを得ないと思うが、その構想については、精査してもらいたい。少子化に歯止めがかからない時代であり、本当に魅力ある学校を作っていけないと、次は串本古座高校が廃校になる危険がある。その意味でも全国募集には賛成する。
- ・ 過疎化、高齢化にある地域の学校だからこそ、できることを考え、特色と魅力ある学校になってほしいと願う。地域に住む一人として協力したい。
- ・ 校舎はどちらでも良いが、1校舎になることには賛成。
- ・ 古座校舎の募集停止は案が提示されてから決定するまでの期間が短く、拙速であり、反対である。
- ・ 在校生への配慮や新コースの準備期間が必要なことから、古座校舎の募集停止の延期を強く望む。
- ・ 古座校舎の閉校は、地域の衰退を加速させることになる。また、閉校は施設の維持費や教員の配置等、財政負担の軽減を図ることが目的と思われ、それらの理由からの再編整備には反対する。
- ・ 古座校舎を閉校した場合の予算面や教育環境面等のメリット、デメリットを発表してほしい。
- ・ 現在中学生で古座校舎をめざしている生徒もいる。そのような生徒のために古座校舎を残してほしい。
- ・ 今回の再編整備（案）はあまりにも唐突であり、これを拙速な方法で実施しようとする提案には基本的に反対である。今後、再編整備（案）をめぐる懸念されることも多く、当該校の生徒・教職員・保護者はもちろん、地域、教職員組合などと話し合

一方、串本校舎は統合以来、3学級の生徒募集を行ってきましたが、平成28年度に2学級の募集となりました。

このような状況の中、串本・古座両地域の生徒数は今後も減少する傾向にあり、学校行事、生徒会活動、部活動等の活性化、生徒同士や教職員とのふれあいによる人間形成等、学校の活力を維持していくには、一つの校舎に統合し、より魅力ある教育環境をつくるのが最善の方策であると考え、学校と十分協議し、再編整備を行うこととしました。

- ・ 串本古座高等学校は、地域の活性化を牽引する教育機関としての役割とともに、地域の発展に貢献し、国内外に地域の魅力を発信する人材を育成することが求められています。今回の再編整備を機に、学校、町、研究施設、地域諸団体等で構成する「地域協議会」を設置する等、地域の教育力を生かして、地域とともにさらなる学校の魅力化、特色化を進めてまいります。
- ・ 串本古座高等学校の活性化を図るとともに、地域の活性化にもつなげるために全国募集を実施する予定です。
- ・ 再編整備を進める理由は、地域の生徒数がこれから大きく減少していく状況の中、早急に何らかの手立てを講じなくては、串本古座高等学校そのものの存続が危ぶまれる状況であるためです。学校が存続していくためには、魅力ある教育内容、全国募集等、新たな取組が必要であり、それらの取組を軌道にのせていくためには時間をかける必要があります。また、学校行事や生徒会活動、部活動等の活性化、生徒同士のふれあいによる人間形成等、学校の活力を維持するためにも、募集を集約する必要があります。

い、充分時間をかけて、協議を重ねて進めるよう強く要望する。

- ・ 再編整備（案）の発表の時期について、この時期の説明が適切であったのか。関係者の不安を取り除けるよう、必要に応じて関係者と協議の場を設け、より丁寧で十分な説明を願う。
- ・ 在校生、中学生、保護者、教職員等、地元への説明が丁寧に行われていない。
- ・ 現高校1年生の受検前に古座校舎募集停止の話がなかったのは、無責任ではないか。
- ・ 古座校舎を1クラスにしたのは県であり、その当時のビジョンはどうだったのか。
- ・ 学校間の募集定員の設定が不公平ではないか。串本古座高等学校の募集定員は、毎年減らされている。
- ・ 今回の県教委のやり方が法的に問題がないのかも検証した上で、パブリックコメントを公表してほしい。
- ・ 県民意見募集は形だけの意見集約ではないか。

- ・ 今回の再編整備（案）の発表後、在校生保護者に対する説明会、地域の中学校校長会に対する説明会等を開催するなど、説明の機会を設けながら丁寧に進めてきました。今後、中学生につきましても、早期に学校説明会等を実施してまいります。
- ・ 県立高等学校の募集定員に関しましては、中学校卒業生徒数の推移や高等学校への入学状況、地域の状況及び進学率等を踏まえ、総合的に検討し、慎重に決定しています。
- ・ 県立高等学校の再編整備につきましても、きのくに教育審議会での提言等に基づき、再編整備基本方針を策定し、その後も、関係機関等への説明や県民意見募集等、慎重に種々検討を重ね、行ってきました。

(2) 学校の魅力化・特色化について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none">・ 新しくコースを作るのであれば、進学に特化したコースを作ってほしい。・ グローカルコースのようなコースよりも、一般教養に力を入れた教育を希望する。・ グローカルコースにおいて全国から人が集まってくれば、地域が活性化するので、このコースに大いに興味がある。・ グローカルコースについて、グローバルにしてローカルという発想はたいへん重要な視点ではあるが、コース名として外部の理解、共感は得られるだろうか。「観光コース」「水産・リゾートコース」等、違う名称でコース設置をしてはどうか。・ グローカルコースを研究拠点、または、情報発信地にすべく、関係機関との連携や協力に本腰を入れて取り組んでほしい。・ ESD（持続可能な開発のための教育）を実践する学校として、ユネスコ本部から	<ul style="list-style-type: none">・ 普通科3コースの中に、大学進学を希望する生徒に対応したコースを設けます。・ 各コースとも普通科に設置されるコースであり、中学校教育の基礎の上に、さらに幅広い一般的な教養を身につける普通科教育を行ってまいります。・ グローカル（Glocal）とは、グローバル（Global：地球規模の、世界規模の）とローカル（Local：地方の、地域的な）を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する（Think globally, act locally）」という考え方です。このような考えや行動ができる人材

ユネスコスクールに認定されている串本古座高校にグローバルコースが設置されて全国から生徒を募集することは、本当に素晴らしい提案である。

- ・ グローバルコースの必要性を感じない。入学希望者の見込み数、シラバス等を公表するとともに、募集方法や受検方法の明確な設定、通信制の検討等をすべきである。
- ・ グローバルコースについて、目的や教育内容がはっきりせず、違和感や不安を感じる。
- ・ 新コースの卒業生には、3年間の学習の成果として、インストラクター資格、熊野語り部認証、トルコ語の取得等、何らかの資格を付与してほしい。
- ・ トルコとの国際交流等は、必修教材としてほしい。
- ・ 和歌山大学観光学部との連携を強化し、学習内容の指導や教授陣の派遣等について全国に先駆けたモデル校となるような運営を願う。
- ・ 串本・古座地域には、海山川の自然や観光資源、文化等の財産があり、諸外国との交流の歴史がある。これらの資源等をより発展させるものが「特許教育」であり、若者の心と町に活気を与える最善の方策の一つとして「特許教育」の推進を求める。
- ・ グローバルコースで学ぶカリキュラムに、「移民の文化」やユネスコの究極目的である「平和学」、航空自衛隊串本分屯基地がある町としての「日本の自衛」等を設定してほしい。
- ・ さまざまな人たちが学べる機会ができるよう、夏季セミナー等を開催してほしい。
- ・ 中高一貫コースや完全寮制を取り入れたグローバルコース、進路希望によって系列に分かれる総合コース等を導入してはどうか。
- ・ 地域と協働、連携を深めるための「地域協議会」について、権限をいくつか持った会議とし、その役割を果たすため、きっちり機能していく組織にしてほしい。
- ・ 串本古座高校は、この地域の唯一の高校として、支援が必要な生徒に手厚く対応してほしい。そのためにも、教員定数やチーム学校としての職員の充実を進めてほしい。

の育成を目標としたコースの名称案としてグローバルコースとしました。

- ・ グローバルコースでは、地域の自然や文化、歴史等について体験を通して学び、地域の魅力を発見し、それを日本や世界に発信する人材や将来の地域のリーダーとして活躍できる人材の育成をめざしています。
- ・ グローバルコースでは、県水産試験場等、地元とつながりのある研究施設や大学等と連携し、地域の特性を生かした教育活動を行う予定です。
- ・ 求める生徒像や実技・面接の有無等、入学者選抜の具体的な内容につきましては、今後、公表していきます。
- ・ 各コースの具体的な教育内容については、学校と協議を進めてきましたが、今後も充実した内容となるよう協議を重ねてまいります。
- ・ 学校、町、研究施設、地域諸団体等で構成する地域協議会については、学校の教育活動をしっかりとサポートしていけるよう、県教育委員会としましても支援してまいります。
- ・ 串本古座高等学校だけでなく、県内の全ての県立高等学校において、支援が必要な生徒に対して、生徒一人一人のニーズに応じた指導や支援を一層充実してまいります。

(3) 募集の集約先や通学方法等について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の状況等から、串本校舎へ募集を集約することに賛成する。 ・ 生徒の減少から、一つの校舎に募集を集約しなければならない時期に来ていると思うが、串本、古座川、新宮、那智勝浦など、さまざまな地域から通う生徒を想定した場合、古座校舎に募集を集約する方が通学に便利ではないか。 ・ 古座校舎の環境でこそ、国内外に地域の魅力を発信する人材、地域に貢献する人材等の土台を育成することができる。 ・ 校舎を一つにすることは賛成だが、現状では古座川上流地域の生徒は串本校舎に通うべきでない。交通の便が良くならないのであれば、古座校舎に統合すべきである。 ・ どの地域に住む生徒にも公共交通で通う手段を確保し、進学先が一つ減ることが、不利益とならないようにしてほしい。 ・ 古座川地域から串本校舎に通うことになる生徒は、身体的にも精神的にもつらくなる。 ・ 古座校舎と串本校舎間等では、保護者が生徒を送迎することも多く、土日の部活動等も含め、たいへんである。在校生のためにバス等の整備が必要である。 ・ コースの設置とともに寄宿舎の整備を行えば、串本・古座地域の少子化を埋め合わせることが期待できる。 ・ 通学不可能な生徒や全国募集する生徒の住居等を先に確保すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合にあたっては、地域の生徒数や敷地、校舎の状況等を総合的に検討した結果、串本校舎としました。 ・ 古座川上流地域に住んでいる生徒の通学については、古座川町や串本町と連携し、交通手段の確保に努めてまいります。 ・ 校舎間のシャトルバスについては、現在も運行しています。今後も部活動等に参加する生徒に支障がないよう、取り組んでまいります。 ・ 全国募集する生徒や通学困難な地域から進学する生徒の住居については、串本町等、地域の協力を得ながら、学校とともに地域や生徒にとって最も良い方法を検討してまいります。

(4) 防災面について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子供の状況から、串本校舎に統合することは当然の結論であると考えますが、串本校舎について、津波に対してはどう対応するのか。JRの駅に近い高台に校舎を新設してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古座校舎は、地震等の際に、学校に近接している山腹が崩壊する危険性があります。 串本校舎は、体育館を除いて津波による浸水の危険が

<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災面では現状、両校舎ともに不十分。古座校舎の立地では、大地震が起こった際には土砂崩れにより甚大な被害が起こる可能性がある。串本校舎は津波による浸水が考えられる。しかし、串本校舎は串本中学校とも隣接している現状等を考えると、串本校舎を地域の防災拠点となるよう対策を講じていくべきだと考える。 ・ 古座校舎に募集を集約する方が、駅からの距離も近いし、津波による浸水の可能性からも良い。 ・ 串本校舎では、駅から学校までの通学に時間がかかるため、津波が発生した場合は、大きな被害をもたらす危険がある。 	<p>ありますが、避難場所として校舎の裏手に浸水区域外となる海拔17メートルの元雇用促進住宅の敷地があります。</p> <p>両校舎ともに、地震等に対する備えが必要ですが、さまざまな条件を考慮し、串本校舎に募集を集約することとしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 串本校舎では、現在、体育館出入口付近から元雇用促進住宅の敷地につながる避難路も設置していますが、今後、グラウンドから直接つながる避難路を設置する等、避難しやすい環境を整えてまいります。 ・ 防災面につきましては、生徒や教職員等の安全を十分に確保できるよう、学校の状況に応じた取組を進めてまいります。
--	---

(5) 在校生への対応について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 在校生が不安にならないよう、生徒の気持ちを最優先に考えてほしい。 ・ 古座校舎の在校生の今後のあり方について、具体的方針を早急に示してほしい。 ・ 古座校舎在校生の今後のあり方が具体的に示されない限り、来年度の募集停止は、避けるべきである。 ・ 古座校舎が閉校となるとしても、在校生の学校行事等は、これまでどおり古座校舎単独で行ってほしい。 ・ 再編整備の際は、古座校舎の生徒も串本校舎に移れるようにしてほしい。 ・ 古座校舎の在校生は、現状のコースのまま、串本校舎の空き教室を借り、授業を受け、体育祭や文化祭等の行事は両校舎合同で行うという形にはできないか。 ・ 古座校舎の生徒は、来年度以降も、同校舎で授業を受けられるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在校生が今後の学校生活に不安を感じないように、各校舎において、生徒個々に対する面談の機会等を充実してまいります。 ・ 在校生については、入学した校舎で卒業することを基本としていますが、できる限り柔軟に対応していきたいと考えています。 ・ 学校行事等については、在校生の意向を十分に尊重しながら進めてまいります。 ・ 古座校舎の在校生については、一人一人の思いを尊重しつつ、今後も継続して充実した学校生活を送れるよう、

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現1、2年生が、入学した校舎を卒業できるよう、生徒、保護者、教職員の声をしっかり聞き、その意見を尊重し、卒業までの教育条件を整えてほしい。 ・ 在校生の教育の保障、進路の保障を最優先にしてほしい。 ・ 在校生が母校に誇りをもって卒業できるようにすることを忘れないでほしい。 	<p>学校と連携し、最大限の支援をしてまいります。</p>
--	-------------------------------

(6) 古座校舎の跡地について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉校舎後の古座校舎の整備計画はどのようになるのか。 ・ 閉校舎後の古座校舎等について、大学の学部等を誘致し、校舎を利用してはどうか。その学部と串本古座高校が連携することができれば、地域の若者の人口増加につながるとともに、地元教育の場として発展的な展望が持てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古座校舎の跡地利用については、地元の串本町等の意見を伺いながら進めていきたいと考えています。

(7) その他

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 串本町内に所在する唯一の高校で、校舎も一つとなるため、校名もわかりやすく「串本高等学校」に改めるべきだ。 ・ 子供の人数を見れば、閉校や統合もやむを得ない。今後は、新宮方面に進学する子供たちのために朝夕の電車の本数を増やすよう、JRに働きかけるとともに、県や町もそれを推進するための補助金を出してはどうか。 ・ 那智勝浦町から通学する生徒も電車の本数が少なく不便である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 串本古座高等学校は、串本高等学校と古座高等学校両校の伝統を受け継ぎ、地域の高等学校として開校し、現在に至っています。そのため、校名につきましては、変更は考えておりません。 ・ 生徒の通学については、県内のどの学校においても、生徒の利便性が増すよう、公共交通機関と連携してまいります。